

EST交通環境大賞奨励賞を受賞 あきたEVバス実証コンソーシアム

秋田県産業技術センターは、秋田の強みを活かした売れる技術・製品を産み出す施策を展開しております。特に市場動向や企業ニーズに対応した「輸送機、環境・エネルギー、電子デバイス、医療機器」の産業分野別の4本柱事業に着手しております。このたび輸送機産業分野における技術開発成果の一部が、EST交通環境大賞奨励賞を平成27年2月26日に受賞することとなりました。

EST交通環境大賞とは

ESTとは「Environmentally Sustainable Transport(環境的に持続可能な交通)」の頭文字をとった略号です。EST交通環境大賞は、EST普及推進委員会(委員長:太田勝敏/東京大学名誉教授 他、大学、研究機関、国土交通省、警察庁、環境省出身の委員約20人で構成)が、日本におけるESTの一層の普及のために、地域の交通環境対策に関する取組み事例を発掘し、優れた取組みの功績や努力を表彰するとともに、その取組みを広く紹介し、普及を図るために、平成21年度に創設したもので、大賞、優秀賞、奨励賞があります。

受賞内容

県内の電子部品産業が縮小する中、秋田県産業技術センターは、次世代のキーワードとして「パワーエレクトロニクス、電池」を掲げ、県内企業がこの領域に参入する際のプラットフォームとなるEV(電気)バス開発プロジェクトを、平成23年度に県産業労働部地域産業振興課と共に企画しました。この企画を実行するために、秋田いすゞ自動車(株)が代表となり、県内企業12社による「あきたEVバス実証コンソーシアム」を結成しました。

現状の路線バスをベースに、エンジンをモータに置き換え、エンジンルーム内に電池を搭載し、改良を重ね、平成24年7月に電動化が完成しました。同時にバス路線の営業運行ライセンスも取得しました。バスの愛称を一般募集により「EREMO-AKITA(エレモ・アキタ)」と名付け、秋田市中心市街地再開発事業の完成式でお披露目をしました。

その後はコンソーシアム参画企業の秋田中央交通(株)が実際のバス路線で試験運行を行い、いくつかの改良を重ね、現在は通常の営業運転を行っています。

環境負荷の少ないEVバスの開発から運行やメンテナンスまでを地域の産学官が取組み、実際の営業路線での運行に至っていること、試乗会などを通じて市民への普及啓発活動に努めていることなど、環境への配慮に加え、地域産業の活性化にも大きく貢献している優れたプロジェクトの実施手法が評価され、今回、EST交通環境大賞奨励賞を受賞しました。

(敬称略)



写真 EREMO-AKITA(エレモ・アキタ)